

大麦管理特報 ~第2号~

令和6年10月15日
黒東地域農業技術者協議会

大麦の収量・品質を高めるためには、健全な根づくりで年内の莖数を確保することが重要です。今後は、ほ場の排水対策や追肥を的確に行い、越冬前の生育量を確保しましょう。

1 播種

播種が遅れている場合は、早急に排水対策を行い、10月中に播種を必ず終えましょう。

<播種時期ごとの播種量の目安>

播種時期	目標苗立数 (㎡当たり)	播種量の目安(10a 当たり)	
		ドリル播	表面散播
10月中旬	200本	8.5kg	9.0kg
10月下旬	230本	10kg	

10月中旬以降は降雨日が多く、ほ場が乾かないことが懸念されます。排水が悪くドリル播が困難な場合、ほ場によっては表面散播に切り替えましょう。
※詳細は指導員までご相談ください。

[表面散播での作業の流れ]

施肥 ⇒ 耕起 ⇒ 基幹排水溝設置 ⇒ 表面播種 **注) 除草剤は播かない!**

2 排水対策

- ① 降雨後はほ場を点検し、停滞水が残っている場合、新たな溝を掘るなどして畝の表面に溜まる水を排除しましょう。
- ② 排水溝が排水口まで連結されているかを再度確認し、ほ場内に水が溜まらないように随時手直しましょう。



排水口



排水口

停滞水が残る生育不良となる



【降雨後のほ場の様子】

排水チェック
&
手直し!

3 年内追肥 (分施肥のみ)

※追肥は11月中旬までを目途に遅れずに施用し、年内生育を確保する。

施肥時期	肥料名	施用量
播種1か月後	硫安	20 kg/10a

注) 基肥にエコ大麦44号を使用した場合、追肥は必要ありません。